

## 島根県立大学開学10周年記念式典 あいさつ

一言、ご挨拶を申し上げます。

島根県立大学の開学10周年、誠におめでとうございます。

開学以来、この浜田キャンパスでは、北東アジア研究をはじめとする様々な研究と教育が行われるとともに、地域に開かれた大学として、地域活性化の一翼を担ってこられました。

県立大は、受験者の数や就職率の高さ、あるいは文部科学省の評価などから見ましても、全国有数の公立大学に発展しております。

こうしたこれまで発展、充実にご尽力いただきました宇野前学長、本田学長をはじめとした教職員の方々、応援をいただいている地元浜田市や江津市などの皆様、そして多くの関係の皆様にご心から敬意を表する次第であります。また、大学設置者である県といたしまして、厚くお礼申し上げます。

さて、開学後の十年間を振り返りますと、世界全体は大きな変動期にあります。そしてこの日本も大きな変動にさらされてきました。今もその変動は続いております。世界経済のグローバル化、中国、インドなど新興国の発展、世界的なエネルギーや資源の不足、これと同時に進行する地球温暖化、北東アジアにおける不安定な政治情勢など、大きな変化が起こっております。

国内では少子高齢化が進み、人口減少が懸念されております。そして、日本の経済・社会の成熟化が進み、人々の価値観にも大きな変化が見られます。

島根においては、中山間地域問題、地域医療・福祉の確保、産業振興、地域振興など多くの課題を抱えております。

このような中で、我々の島根が発展していくためには、豊かな自然、古き良き文化・歴史など島根らしい強みを活かしながら、高度で新しい知識や情報、最先端の技術などを導入し、活用していく必要があります。

そのために、大学には、学術の研究とともに優れた人材を養成することが強く期待されています。教養や専門的な知識だけでなく、世の中の動きを冷静に分析・評価する力や行動する力、生きぬく力、そして国際交流が進む中で国際社会に通じる力を身につけた若い人々を育てていかなければなりません。

島根県立大学には、そうした期待に応えられるよう、さらに発展、充実していくことが望まれておりますし、県もそれに対して必要な支援を行ってまいりたいと考えております。

皆さんには、これまでの輝かしい実績を踏まえつつ、この島根の地で、ますます教育研究の実をあげられ、その真価を発揮されるようご期待申し上げます。

さて、昨年10月に平岡都さんがお亡くなりになるという実に痛ましい事件が起こりました。1日も早く、事件が解決されるとともに、今後、二度とこうした事件が起きないように、県も安全、安心の環境づくりに努めて参ります。

そして、学生、教職員、そして私たち全員が平岡さんの遺志を受け継いで、しっかりと前進していかなければならないと思いますので、よろしくごお願い申し上げます。

終わりになりますが、島根県立大学の今後さらなる発展とご出席の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。